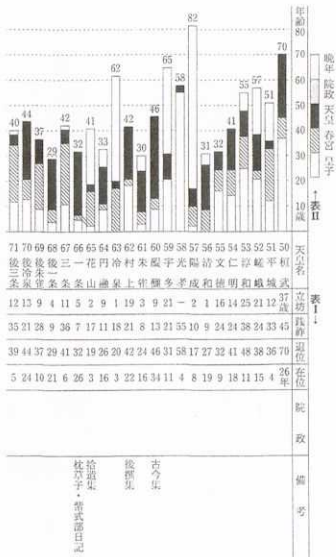
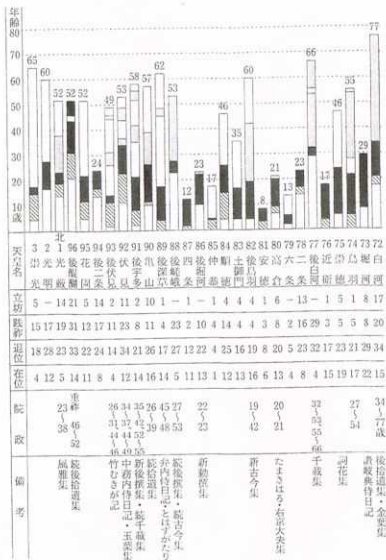


和暦	西暦	齡	関係事項	一般事項
正和 二	一一三三	1	7・9 崇仁親王出生。	10月伏見院・京極為兼出家。 12月為兼捕時。
文保 四	一一三五	3		9・3 伏見院崩。
文保 元	一一三七	5		2・26 後醍醐天皇践祚。3月邦 貞親王立坊。
二	一一三八	6		
元徳 元	一一一九	7	正・19 説書始。	12月後醍醐天皇親政開始
二	一一二〇	8	4・1 連句開始。	
元亨 元	一一二一	9	3・1 文学の番開始。7・24 詩作始。	
二	一一二二	10	4・13 飯元服。	
三	一一二三	11	5・7 和歌の修練開始。11・17 着袴儀。11・29 琵琶 始。12・19 笛始。	
正中 元	一一二四	12	閏正・16 学問所設置。	9・19 正中の変勃発。
二	一一二五	13		3・20 東宮邦貞親王死去。
嘉祥 元	一一二六	14	7・24 立太子。	
元徳 元	一一二九	17	12・28 元服。	
二	一一三〇	18	2月花園院から「滅太子書」を与えられる。	8・24 元弘の変勃発。11・8 康 仁親王立坊。
元弘 元	一一三一	19	9・20 践祚。	
正慶 元	一一三二	20	3・22 即位式。5月玄象牧馬(異代楽器)を弾す。 11・13 大嘗会。	3・7 後醍醐天皇隠岐へ配流。 3・21 京極為兼没。
元弘 二	一一三三	21	3月天皇・上皇等六波羅へ避難。5・7 六波羅陥落。 5・9 近江国香壇にて六波羅武士全滅。5・25 天皇 即位。6・26 後伏見院出家。12・10 太上天皇の尊号 を受け、御子内親王を妃とする。	閏2・24 後醍醐天皇隠岐脱出。 5月鎌倉幕府滅亡。
建武 元	一一三四	22	4月興仁親王(崇光天皇)出生。	正・23 恒良親王立坊。11月鎌良 親王鎌倉に幽閉される。
二	一一三五	23	11・22 花園院出家。	6月西園寺公宗の謀反露見。7 月中先代の乱。8月足利尊氏東 下。11月尊氏追討のため新田義 貞を鎌倉に。
建武 三	一一三六	24	2月尊氏に院宣を下す。3月諸社に般若心経奉納。 4・6 後伏見院崩。6・3 治天の君として政務開始。 8・15 光明天皇践祚。11・14 成良親王立坊。この年 直仁親王出生か。	正月後醍醐天皇比叡山へ。2月 尊氏九州へ落ちる。6月尊氏入 京。後醍醐天皇再び比叡山へ。 10・10 後醍醐天皇下山して花山

延元二	一二三七	25	12・28 光明天皇即位式。	院へ。12・21 後醍醐天皇吉野へ。3・6 金崎落城。
建武四	一一三八	26	3月淳仁親王（後光厳天皇）出生。8・13 朝仁親王立坊（崇光天皇）。	5・22 北畠顯家戦死。閏7・2 新田義貞戦死。8・11 尊氏征夷大将軍となる。
暦応三	一一三九	27	5・19 長尾藤原。6・27 御会始儀行。	8・16 後醍醐天皇崩。10・5 天龍寺建立の院宣下される。
興国元	一一四〇	28	5・14 暦応禪宗法制定。	
暦応二	一一四一	29	4月嚴安門院紀となる。	
興国三	一一四二	30	5・7 水福門院崩。8月土岐頼遠の狼藉事件。この年「光厳院御集」編纂。	
康永元	一一四三	31	4・13 皇位継承に関する置文をしたためる。この年「院六首歌合」催行。	
興国四	一一四四	32	4月轉撰集撰集作業開始。	8・29 天龍寺落度法要。
正和元	一一四五	33	4月必要製百首を召す。11・9 「風雅和歌集」完成。	
貞和二元	一一四六	34	9月「風雅和歌集」四季部完成。	
正和三元	一一四七	35	10・24 崇光天皇踐祚、直仁親王立坊。11・11 花園院崩。	正月楠木正行戦死、後村上天皇は賀名生へ。
貞和四元	一一四八	36	秋頃「風雅和歌集」全巻完成。	8月足利直義と高師直の対立激化。
正和五元	一一四九	37		10月親応の擾乱。12月直義南朝に降参。
親応元	一一五〇	38	11・7 崇光天皇・春宮直仁親王即位。12・28 光明院出家、光明・崇光兩院に太上天皇の尊号。	2・26 高師直殺さる。7月尊氏と直義決裂。10月尊氏南朝に降参。
正和六元	一一五一	39	閏2・21 光厳・光明・崇光院と直仁親王、南朝行宮の石清水八幡宮へ。3・3 河内東条へ。6・2 賀名生へ。8・8 光厳院出家。8・17 後光厳天皇踐祚。	2・26 直義没。後村上天皇賀名生を出発。閏2月南軍が京都・鎌倉を攻撃・占拠。3月足利軍が京都・鎌倉を奪回。5・11 南朝軍石清水八幡宮から退却。6月南軍京都侵攻し、後光厳天皇・足利義隆天龍へ。9月掃京。
正和七元	一一五二	40		正月南軍京都侵攻し、後光厳天皇・尊氏近江へ逃る。3月掃京。
文和二元	一一五三	41		
正和三元	一一五四	42	3・22 三院、河内金剛寺へ。10月後村上天皇も同所へ。11・11 「花園院七回忌法華経要文和歌」詠進。	
文和一	一一五五	43	8・8 光明院掃京。	
正和一	一一五六	44	10月崇光院への長尾藤原伝授。11・6 光厳院神へ帰依。	
延文二	一一五七	45	2・18 光厳・崇光兩院と直仁親王掃京。閏7・23 広義門院崩。	
正和三	一一五八	46	4・2 嚴安門院崩。9月光厳院危篤、この頃嵯峨小倉に住む。	4・30 尊氏没。
延文三	一一五九	47		
正和四	一一六〇	48		
康安元	一一六一	49	秋大和・高野行脚。	2月後光厳天皇掃京。
正和五	一一六二	50	4・8 伏見館に関する置文作成。この年持波山因常照寺へ。	
貞治二	一一六三	51		
正和六	一一六四	52		



中古中世の天皇の一生 五七一年間

〔天応元〕(七八) 桓武践祚
〔三五一〕 桓武退位